【任意】帯状疱疹任意予防接種のお知らせ（説明書）

このお知らせをよく読んでから、予診票を記入してください。

概要

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

帯状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

対象者

接種日時時点で50歳以上65歳未満の市民の方

昭和35年4月2日～昭和36年4月1日生まれの方は定期予防接種の対象となります。

過去に費用助成を受け接種を完了している方は、助成を受けることができません。

実施期間

令和7年4月1日（火）～令和8年3月31日（火）

実施場所

実施医療機関一覧表をご覧ください。

帯状疱疹ワクチンについて

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、組換えワクチン（GSK社：シングリックス）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンも、帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

対象ワクチン	生ワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	組換えワクチン 乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス」
接種回数（接種方法）	1回（皮下に接種）	2回（筋肉内に接種）※1
自己負担額 ※2	4,500円	11,000円/回
接種できない方	・病気や治療によって、免疫が低下している方は接種出来ません。 ・妊娠をしている方 ・他の生ワクチンを接種27日以上の間隔があいてない方	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を施工している方

※1 組換えワクチンは、通常、2か月以上の間隔を置いて（遅くとも6か月後までに）2回接種します。病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。

（注）1回目接種から1か月未満もしくは6か月を過ぎて2回目の接種を行った場合は助成を受けることができません。

※2 生活保護受給世帯等は、医療機関に受給証明書を提出した場合は無料

持ち物

- ・帯状疱疹任意予防接種 接種券
- ・接種費用（生活保護受給世帯及び中国残留邦人等支援給付世帯の方は、医療機関に受給証明書を提出した場合は無料）
- ・健康保険証、運転免許証など本人確認ができる書類

※生活保護受給者及び中国残留邦人等支援給付世帯の方は接種の度に受給証明書が必要です。

裏面もよくお読みください。

接種を受けることができない方

- ・明らかな発熱がある方
- ・重篤な急性疾患にかかっている方
- ・接種する予防接種の成分によってアナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
- ・その他、医師が不適當な状態と判断した方

予防接種を受ける際に注意が必要な方

- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方
- ・予防接種後、2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状になったことがある方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・過去に免疫不全の診断をされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・接種を受ける予防接種の成分でアレルギーを起こすおそれがある方

帯状疱疹ワクチンの効果について

		生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK社)
帯状疱疹に対するワクチンの効果(報告)	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

副反応について

主な副反応の発現割合	生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK社)
70%以上	—	疼痛*
30%以上	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感*、熱感*、腫脹*、疼痛*、硬結*	頭痛、腫脹*、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感*、倦怠感、その他の疼痛

*ワクチンを接種した部位の症状 各社の添付文書より厚労省にて作成

予防接種健康被害救済制度について

帯状疱疹ワクチン予防接種は、予防接種法に基づかない任意予防接種です。予防接種によって、入院を必要とする程度の疾病や、日常生活が著しく制限されるほどの障害など健康被害が生じた場合には独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく「医薬品副作用被害救済制度」等の救済の対象になる場合がございます。

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザや新型コロナワクチン、肺炎球菌等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチンについては、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種を受けてください。

接種後の注意事項

- ・接種後30分程度は、急な副反応が起こることがあります。医療機関と連絡が取れるようにしておきましょう。
- ・接種した部位は清潔にしましょう。入浴は可能ですが、注射部位を擦ることはやめましょう。
- ・接種当日は、激しい運動、大量の飲酒は避けましょう。
- ・接種後、接種した部位に異常な反応や体調の変化があった場合は、医師の診察を受けましょう
- ・【生ワクチン】女性の方は、接種後2か月間は妊娠を避けましょう。

お問合せ

西東京市健康福祉部健康課

電話 042-438-4021

FAX 042-422-7309